

令和元年6月14日現在

機関番号：35408

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12695

研究課題名(和文)カンボジアでの被服学教育プログラムによる生活視点での新たな国際協力手法の構築

研究課題名(英文)Fostering international cooperation through clothing educational practice of home economics in Cambodia

研究代表者

楠 幹江(Kusunoki, Mikie)

安田女子大学・家政学部・教授

研究者番号：40071609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、生活視点を重視する新たな国際協力手法の構築を目指し、中学校・高等学校家庭科の効果的な被服学教育プログラムの構築を、カンボジア・シエムリアップ州を対象に展開するものである。研究調査を進める中で、家庭科の教育プログラムとして、制服の製作が効果的であると考へ、それを軸に教育プログラムの作成を進めた。2016-2018年度の調査及び授業プログラムの開発・実証・検証を通じて、グループ学習の導入及びICT教材の導入といった手段を得て、カンボジアの中学家庭科の被服製作の適切な授業プログラムの構築が成されたと考へる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家政学は衣・食・住・健康・環境といった領域を広く包括する。そして、家政学は生活する上での技能だけでなく、職に直結するという実用性も多分に有している。カンボジアの子供の教育状況として、地域によっては、多くが小中学生程度までの教育しか受けることができない。こうした状況が、犯罪や貧困といった社会問題に直結する背景がある。であるから、小中学校卒業までに、手に職を付け就労することができるような学習というのは大変意義があることと捉えている。その点において、本研究で展開する中学校・高等学校家庭科における被服実習授業を充実化させることは、家政学の観点からの国際協力としての意義を有する。

研究成果の概要(英文)：In this research, with the aim of establishing a new international cooperation method that emphasizes life perspectives, the development of an effective clothing education program for junior high school and high school home economics classes was developed in Siem Reap province, Cambodia. In the research, we found that the production of school uniforms was effective as a home economics education program, and we proceeded a development of an education program based on that. Through the development, demonstration and verification of class programs during 2016 to 2018, by the means of introduction of group learning and ICT teaching materials, an appropriate class program for clothing education was constructed.

研究分野：家政学

キーワード：家政学 国際協力 被服 カンボジア

1. 研究開始当初の背景

家政学は衣・食・住・健康・環境といった領域を広く包括する。これらの学問は、古来より培ってきた技術・知識を学問体系に取り入れた実学的な学問分野である。そして、それらの技能は、生活する上での技能だけでなく、職に直結するという実用性も多分に有している。本研究では、カンボジアの家庭科教育に関する学術的な成果に加え、カンボジアの文化に即するよう考案した授業プログラムの構築を行う。学術的・技術的な支援のみでなく、より教育的な国際協力となるよう展開する。カンボジアの子供の教育状況として、地域によっては多くの子供たちが小中学生程度までの教育しか受けることができない。こうした状況が、犯罪や貧困といった社会問題に直結する背景がある。であるから、小中学校卒業までに、手に職を付け就労することができるような学習というのは大変意義があることと捉えている。その点において、本研究で展開する中学校・高等学校家庭科における被服実習授業を充実化させることは、家政学の観点からの国際協力としての意義を有している。

2. 研究の目的

本研究においては、生活視点を重視する新たな国際協力手法の構築を目指し、中学校・高等学校家庭科の効果的な被服学教育プログラムの構築を、カンボジア・シェムリアップ州を対象に展開するものである。人間の生活を研究対象としている家政学の範囲は衣食住を中心に広がるが、本研究では、衣生活を研究の中心におき、日々の衣生活の健全な営みの構築を図る。

研究調査を進める中で、家庭科の教育プログラムとして、制服の製作が効果的であると考え、それを軸に教育プログラムの作成を進めた。カンボジアの子どもたちの写真を目にするとき、制服姿の写真が多いことに気づく。カンボジアの農村部のような場所にあっては、制服の購入は、保護者にとって経済的に容易ではない場合も多いが、保護者の多くは、わが子の将来のために制服を購入し学校に通わせている。一方、子どもにとって、制服は、家事の仕事から解放され、学ぶ楽しみと友人との語らいを提供する大切な衣服として位置づけられている。この制服を、自ら製作する技能を育み着用について学ぶことは、家政学が目的としている「生活の向上と人類の福祉」に繋がると考える。

3. 研究の方法

本研究においては、まず 2016 年度にカンボジア・シェムリアップ州の家庭科の教育状況や教育プログラムについて調査し分析した。次に、カンボジアの文化・風習に根付いた被服学教育プログラム作成のための現地での要望、効果的なメソッドに関する基礎調査を実施した。現地では、被服製作の授業プログラムを展開し、その結果を分析することで、効果的な授業プログラムとなるよう実証授業を進めた。2017 年度には、制服の巻きスカートの製作の授業において、グループ学習及びルービック評価を導入し、その結果を検証した。2018 年度には、制服の巻きスカートの製作に関する ICT 教材（動画教材）を製作し、それをを用いた授業を実施し、検証した。このように、調査・分析から実践的な手法の開発・評価を一貫して行った。これら成果を基に、カンボジアのより多くの地域へと、家庭科の被服教育の充実化とそれによる生活の向上に繋がるよう展開する計画である。

4. 研究成果

4 - 1. カンボジアの家庭科教育状況調査及び被服教育プログラムの検証

2016 年度には、カンボジア・シェムリアップ州を中心に家庭科の教育並びに被服教育に関する研究調査や家庭科の被服教育授業の実施及び検証などを展開した。その中で、カンボジアの文化・風習に根付いた被服学教育プログラム作成することを念頭に研究を進めた。まず、カンボジアの中学校で用いられている家庭科の教科書を日本語に翻訳し、日本における家庭科教育との違いなどについて分析した。また、教育関係者からのヒアリングからカンボジアのシェムリアップ州の家庭科の教育状況についても検証した。以上のような検証を踏まえ、中学校家庭科の被服教育に関して、被服製作のモデル授業を構築すべくブラウス製作の模擬授業を現地

の中学校にて実施した。実施後に、授業の分析、アンケートの分析などから、家庭科の被服教育に関する研究成果と課題を得ることができた。以上のように、カンボジア・シェムリアップ州における中学校の家庭科教育及び家庭科の被服教育に関する調査・分析から授業の実施までを行い、当該研究に関する検証を進めた。

4 - 2 . カンボジア中学家庭科の被服製作授業におけるグループ学習の導入とルービック評価

前述の衣服に関する基礎的内容に関する講義及び被服製作実習を実施した結果、本研究で実施する教育プログラムにおける被服学の授業においては、語学を介さないコミュニケーションや指導の場が多いという知見を得た。また、グループ学習を取り入れた方法がより効果的であるのではないかという可能性を得た。そこで、2017年度には、制服の下衣である巻きスカートの製作の授業プログラムの開発にあたり、グループ学習を取り入れた実習授業の検証を行った。また、教材とした巻きスカート型の制服の下衣は、カンボジアの家庭科教科書の分析を行い、また現地の風習・文化に即したのものとして新たにデザイン・製作した。これらのプログラムの実施並びに、実証授業の結果の分析を行い、国際的な教育プログラムにおける被服学の授業において、グループ学習の効果も確認されるなどの成果を得た。また、教材の制服の巻きスカートは、実際に制服として着用されるなど、授業プログラムを介した実践的な国際協力の成果が確認された。

4 - 3 . 制服のスカート製作授業のための ICT 教材の開発とその検証

2018年度には、カンボジアにおいて家庭科の被服製作を適切に教える教員が不足している状況を踏まえ、カンボジアの制服のスカート製作の実習授業のための ICT 教材（動画教材）の製作を進めた。被服製作の手順を、日本国内にて製作し、その効果を日本人学生を対象として検証した。ICT教材の有効性が得られたため、カンボジアの中学校において、ipad を使用し動画教材を閲覧しながら制服のスカート製作を行う授業を実践し検証した。実習授業から得られた検証成果について詳細に分析を行った。その結果、概ね製作した ICT 教材が適切であったと判断された。一方で、ICT教材を利用した授業の課題として、グループ学習における共同作業を促すようなより適切な実施方法が課題として認識された。

4 - 4 . 成果のまとめ

以上のように、2016-2018年度の調査及び授業プログラムの開発・実証・検証を行った。カンボジアの中学家庭科の被服製作の授業において、グループ学習の導入及び ICT 教材の導入といった手段を得て、適切な授業プログラムの構築が成されたと考える。この授業プログラムを、カンボジアのより広い地域の家庭科教育に普及しうる段階まで研究は到達した。



図1 授業で製作した制服 (2017年度)



図2 グループ学習の授業の様子 (2017年度)

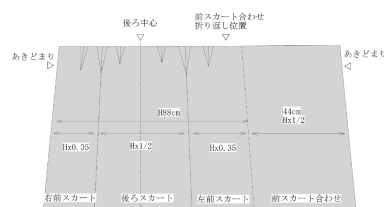


図3 巻きスカート型の制服の型紙 (2017年度)

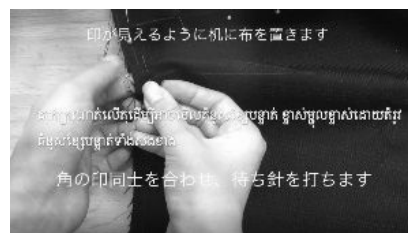


図4 製作した ICT 教材の一コマ (2018年度)



図5 ICT教材を用いた授業の様子 (2018年度)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

1. カンボジアでの家庭科教育実践におけるグループ学習を取り入れたスカート製作、楠幹江、山田俊亮、日本家政学会誌、vol.70(1) 24-32 2019年1月 DOI: 10.11428/jhej.70.24
2. カンボジアでの家庭科教育実践に関する国際協力メソッドの構築 シェムリアップ州パイヨン中学校での事例、楠幹江、山田俊亮、日本家政学会誌、vol.69(No.1) 60-70 2018年1月 DOI: 10.11428/jhej.69.60
3. 相互に幸せな生活を目指した日本とカンボジアの家庭科を通じた国際交流に向けた取り組み、楠幹江、山田俊亮、安田女子大学紀要、(46) 161-168 2018年
4. 幸せな生活の視座、楠幹江、山田俊亮、安田女子大学大学院紀要、vol.23 171-182 2017年
5. カンボジアにおける家庭科の被服教育に関する研究 シェムリアップ州パイヨン中学校での事例 第1報：現状と課題、楠幹江、山田俊亮、生活デザイン学会誌第7号、2-9、2017年3月
6. カンボジアにおける家庭科の被服教育に関する研究 シェムリアップ州パイヨン中学校での事例 第2報：被服製作の実施、山田俊亮、楠幹江、生活デザイン学会誌第7号、10-19、2017年3月

〔学会発表〕(計3件)

1. ICT教材を活用したカンボジア・シェムリアップ州パイヨン中学校での家庭科教育実践、楠幹江、山田俊亮、戸田真南、一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集71(0)2019年5月
2. カンボジアでの被服教育による国際協力手法に資する研究 第二報 グループ学習を取り入れたスカート製作、楠幹江、山田俊亮、一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集70(0)2018年5月
3. カンボジアでの被服教育による国際協力手法に資する研究、楠幹江、山田俊亮、一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集69(0)2017年5月

〔その他〕

1. 安田女子大学家政学部生活デザイン学科 web サイト (2019.1.8)
http://www.yasuda-u.ac.jp/course/life/news/page/post_28.html
2. 安田女子大学家政学部生活デザイン学科 web サイト (2018.1.5)
http://www.yasuda-u.ac.jp/course/life/news/page/2017_11.html
3. 安田女子大学家政学部生活デザイン学科 web サイト (2017.1.5)
http://www.yasuda-u.ac.jp/course/life/news/page/post_14.html

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：山田俊亮

ローマ字氏名：SHUNSUKE YAMADA

所属研究機関名：安田女子大学

部局名：家政学部

職名：助教

研究者番号(8桁): 80580076